

13: 成人 T 細胞白血病リンパ腫(ATL)

1. WG メンバーリスト

氏名	所属	診療科
責任者 加藤 光次	九州大学病院	血液腫瘍内科
赤塚 美樹	藤田保健衛生大学病院	造血細胞移植チーム
石田 高司	名古屋市立大学病院	血液・腫瘍内科
宇都宮 與	公益財団法人慈愛会 今村病院分院	血液内科
鈴宮 淳司	島根大学医学部附属病院	腫瘍・血液内科
高塚 祥芝	公益財団法人慈愛会 今村病院分院	血液内科
田野崎 隆二	国立がん研究センター 中央病院	輸血療法科
東梅 友美	ミンガン大学	
中瀬 浩一	愛媛県立中央病院	血液内科
名和 由一郎	愛媛県立中央病院	血液内科
菱澤 方勝	京都大学医学部附属病院	血液・腫瘍内科
福島 卓也	琉球大学医学部保健学科	病態検査学講座血液免疫検査学分野
増田 昌人	琉球大学医学部附属病院	がんセンター
和氣 敦	国家公務員共済組合連合会 虎の門病院分院	血液内科
崔 日承	独立行政法人国立病院機構 九州がんセンター	血液内科
朝倉 義崇	日本赤十字社 沖縄赤十字病院	血液内科
中野 伸亮	公益財団法人慈愛会 今村病院分院	血液内科
藤原 弘	愛媛大学医学部附属病院	第一内科
町田 真一郎	東海大学医学部付属病院	血液腫瘍内科
澤山 靖	長崎大学病院	血液内科(原研内科)
多田 耕平	国立がん研究センター 中央病院	血液腫瘍科・造血幹細胞移植科
井上 明威	熊本大学医学部附属病院	血液内科
今田 和典	大阪赤十字病院	血液内科
吉田 功	独立行政法人国立病院機構 四国がんセンター	血液腫瘍内科
吉満 誠	鹿児島大学病院	血液・膠原病内科
藤 重夫	国立がん研究センター 中央病院	造血幹細胞移植科
福田 隆浩	国立がん研究センター 中央病院	造血幹細胞移植科

2. 承認研究の進捗状況(2015年1月-12月 ※JSHCT2016を含む)

13-1	「ATL 患者に対する同種骨髄破壊的移植と非破壊的移植の比較検討」 PI: 石田高司
学会発表:	済(WG 研究業績一覧参照) 論文業績: 済(WG 研究業績一覧参照)
13-2	「成人 T 細胞性白血病/リンパ腫に対する臍帯血移植の後方視的検討」 PI: 加藤光次
学会発表:	済(WG 研究業績一覧参照) 論文業績: 済(WG 研究業績一覧参照)
13-3	「ATL 患者に対する同種骨髄破壊的移植と非破壊的移植の比較検討、GVHD の意義について」 PI: 石田高司
学会発表:	済(WG 研究業績一覧参照) 論文業績: 済(WG 研究業績一覧参照)

13-4	「成人T細胞性白血病／リンパ腫の同種移植後再発に対する治療およびその予後に関する検討」 PI:加藤光次
学会発表: 済(WG 研究業績一覧参照) 論文業績:	
13-5	「ATLに対する同種造血幹細胞移植における各種リスクスコアの有用性の検討」 PI:吉満誠
学会発表: 済(WG 研究業績一覧参照) 論文業績:	
13-6	「ATLに対する血縁者間同種移植における移植タイミングと移植成績に関する検討」 PI:藤重夫
学会発表: Fuji S, Fujiwara H, Nakano N, Wake A, Inoue Y, Fukuda T, Hidaka M, Moriuchi Y, Ichinohe T, Atsuta Y, Utsunomiya A and ATL Working Group of the Japan Society for Hematopoietic Cell Transplantation. Early allogeneic hematopoietic stem cell transplantation from a related donor might improve the clinical outcome in patients with adult T-cell leukemia/lymphoma. 第 41 回 EBMT 年次集会 2015, Turkey (口演)	
論文業績: Fuji S, Fujiwara H, Nakano N, Wake A, Inoue Y, Fukuda T, Hidaka M, Moriuchi Y, Miyamoto T, Uike N, Taguchi J, Eto T, Tomoyose T, Kondo T, Yamanoha A, Ichinohe T, Atsuta Y, Utsunomiya A; ATL Working Group of the Japan Society for Hematopoietic Cell Transplantation. Early application of related SCT might improve clinical outcome in adult T-cell leukemia/lymphoma. Bone Marrow Transplant. 2016; 51: 205-11.	
13-7	「染色体異常が ATL に対する同種移植成績に及ぼす影響」 PI: 中野伸亮
学会発表: 論文業績:	
13-8	「再発期ATLに対する同種移植の成績に関する検討」 PI: 藤原弘
学会発表: Fujiwara H, Fuji S, Wake A, Kato K, Takatsuka Y, Fukuda T, Taguchi J, Uchida N, Miyamoto T, Hidaka M, Miyazaki, Tomoyose T, Nagamura T, Morishima Y, Ichinohe T, Atsuta Y, Utsunomiya A. Clinical outcome of allo-HSCT for relapsed ATLL after chemotherapy: the JCHCT ATL-WG study. 第 77 回日本血液学会学術集会, 2015 年, 金沢	
論文業績:	
13-9	「ATL 移植における感染症の影響」 PI: 澤山靖
学会発表: 論文業績:	

3. 会議開催記録(2015 年 1 月-12 月)

日時	場所	会議内容
2015 年 3 月 5 日 (第 12 回)	神戸国際会議場	血縁者間移植における移植タイミング(藤先生)や再発期に対する同種移植の成績(藤原先生)など、適切な移植タイミングに関するデータをまとめる。適切な移植適応の選択のため、移植時に特化した患者リスクスコアの構築も行なう(吉満先生)。新たに、今回染色体核型異常が移植成績に与える影響を、二次調査として中野先生に提案して頂いた。宇都宮先生に務めて頂いた責任者を、次年度から加藤が務めることを承認頂いた。(参加数 14 名)
2015 年 7 月 5 日 (第 13 回)	名古屋第一赤十字病院	「染色体異常が ATL に対する同種移植成績に及ぼす影響」が二次調査に採択、その進捗状況についての報告がなされた(中野先生)。至適移植時期についての学会および論文発表のためにデータについて議論した。ATL の移植でしばしば問題となる感染症について、新たに澤山先生より提案頂き、解析を進める。(参加数 10 名)

4. メーリングリストによる意見交換 (メーリングリスト開設から 2015 年 12 月末時点まで)

(1878)回

5. WG の今後の活動方針・抱負など

今年度は打ち合わせ会 2 回開催、論文 1 編、学会発表 2 演題であった。ATL は、極めて予後不良であるが、新薬時代においても、造血細胞移植は重要な役割を果たしている。希少疾患であり、さらに発症は日本に集中していることから、データ集積されている WG を通しての本邦からの情報発信は引き続き重要である。新たな情報発信という点において、ATL 移植に特化した詳細な recommendation を、他のガイドラインと一線を画す形で、当 WG から提案することも検討してみたい。WG 設立から時間も経過、解析事項も限られてくる中でも、今まで以上に積極的な議論を行い、新たな研究課題を追求したい。さらに、ATL-WG 活性化を図り、ATL 移植成績向上のための基盤作りを行いたい。